

2023年9月 ベント芝って、どんな芝？

あらためてベント芝の特徴を紹介します。

ベント芝は葉が柔らかく細いためボールの転がりの良い環境を作りやすい種類の芝です。

本来暑さに弱い芝ですが、品種改良して比較的気温の高い西日本でも使われています。

ベント芝には夏と冬の年に二回『休眠期』があります。

コウライ芝の休眠期は真冬の年一回です。

休眠期とは落葉樹で言えば葉を落として成長を抑え、安静にしている時期です。

人間で言えば、夜眠る時間帯に相当します。

ベント芝の休眠期は外観みどり色ですが、エネルギーを使わずにじっとしています。

夏に葉がよじれて、色が薄くなっているのは芝が弱っているわけではなく、夏の休眠期に自ら色を薄くして、光の吸収をおさえているのです。

本来ならば落葉樹の様に葉を落としてエネルギーの消費を抑えたいところです。

特に夏はベント芝にとって一番不都合な時期です。全てのベント芝は気温が25°C以上になると光合成能力を低下させ、とりわけ30°C以上になると光合成を行っていません。

逆に呼吸が激しくなり、貯蔵養分を消耗するだけになってしまいます。

また輻射熱でグリーンの表面温度は 40~50°Cくらいになります。人間であれば熱中症でとっくに救急車で運ばれている状態です。

地球温暖化で1年中、同じコンディションを維持する事は非常に難しくなって来ています。

夏場のベント芝への負担を減らす必要性を感じて頂けましたでしょうか。



植物も動物も生きて行くためにはエネルギーが必要です。

そのエネルギーの元は光合成で作られる炭水化物(でんぶん・糖質)です。

動物は炭水化物を『物を食べる』事で体内に取り入れます。植物は空中の二酸化炭素と根から運ばれる水と光のエネルギーで炭水化物を作ります。素晴らしい化学工場です。

良い環境の中でベント芝を作る為に、特に午前中に光合成を活発に行う環境を作る事と夏の休眠期にはゆっくり休ませることが必要なのです。

こんなベント芝の特性を根拠に、夏にはバミューダーグリーンを使い、グリーン・FW・ラフ等を出来るだけ日当たりのよい環境にする為に10年以上かけて林帯整備をして参りました。